

復活節第二週 日毎の糧



「わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である。」ヨハネ 6・63

主の言葉は、わたしたちの命の糧です。わたしたちの命を生かし、日々の歩みを教える言葉を、日毎に主ご自身がわたしたちに語ってくださいます。主の生きた言葉を聴くことによって、わたしたちは命の糧をいただくことができます。一日の糧をいただくのですから、起床後、あるいは午前の時間に行うことをお勧めします。日々、主の言葉に耳を傾けましょう。

2020 頌栄教会

1

日毎に、「旧約聖書」「詩編」「新約聖書」

が定められています。御言葉が心の内に留まる

ことを願いながら、朗読することが大切です。

そして、しばらく黙想のときをもちましょう。

今日、主はわたしに何を呼びかけておられるのか。

今日、どのように御言葉を生きることが出来るのか。

主との交わりの中で思いを巡らし、主への応答として自分の言葉で祈り、最後に主の祈りお捧げしましょう。



4月20日(月) 復活節第二月曜日

祈祷

愛の源である神、あなたは独り子をお与えになるほどにわたしたちを愛し、その愛をもってわたしたち一人ひとり豊かな賜物を与えてくださいます。あなたがわたしたちに授けられた賜物を祈りの内に見出し、生かし合うことによって、あなたに栄光を帰すことができます。

すように。主イエス・キリストの御名によって。アーメン

旧約聖書(出エジプト1・1―22)

ヤコブと共に一家を挙げてエジプトへ下ったイスラエルの子らの名前は次のとおりである。ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イサカル、ゼブルン、ベニヤミン、ダン、ナフタリ、ガド、アシエル。ヤコブの腰から出た子、孫の数は全部で七十人であった。ヨセフは既にエジプトにいた。

ヨセフもその兄弟たちも、その世代の人々も皆、死んだが、イスラエルの人々は子を産み、おびただしく数を増し、ますます強くなって國中に溢れた。そのころ、ヨセフのことを知らない新しい王が出てエジプトを支配し、国民に警告した。

「イスラエル人という民は、今や、我々にとってあまりに数多く、強力になりすぎた。抜かりなく取り扱い、これ以上の増加を食い止めよう。一度戦争が起これば、敵側に付いて我々と戦い、この国を取る

かもしれない。」

エジプト人はそこで、イスラエルの人々の上に強制労働の監督を置き、重労働を課して虐待した。イスラエルの人々はファラオの物資貯蔵の町、ピトムとラメセスを建設した。しかし、虐待されればされるほど彼らは増え広がったので、エジプト人はますますイスラエルの人々を嫌悪し、イスラエルの人々を酷使し、粘土こね、れんが焼き、あらゆる農作業などの重労働によって彼らの生活を脅かした。彼らが従事した労働はいずれも過酷を極めた。

エジプト王は二人のヘブライ人の助産婦に命じた。一人はシフラといい、もう一人はプアといった。「お前たちがヘブライ人の女の出産を助けるときには、子供の性別を確かめ、男の子ならば殺し、女の子ならば生かしておけ。」助産婦はいずれも神を畏れていたので、エジプト王が命じたとおりにせず、男の子も生かしておいた。エジプト王は彼女たちを呼びつけて問いただした。「どうしてこのよう

なことをしたのだ。お前たちは男の子を生かしているのではないか。」助産婦はファラオに答えた。「ヘブライ人の女はエジプト人の女性とは違います。彼女たちは丈夫で、助産婦が行く前に産んでしまうのです。」神はこの助産婦たちに恵みを与えられた。民は数を増し、甚だ強くなった。助産婦たちは神を畏れていたので、神は彼女たちにも子宝を恵まれた。

ファラオは全国民に命じた。「生まれた男の子は、一人残らずナイル川にほうり込め。女の子は皆、生かしておけ。」

詩編（詩編38）

主よ、怒ってわたしを責めないでください。
憤って懲らしめないでください。

あなたの矢はわたしを射抜き
御手はわたしを押さえつけています。

3 わたしの肉にはまともなところもありません

あなたが激しく憤られたからです。

骨にも安らぎがありません

わたしが過ちを犯したからです。

わたしの罪悪は頭を越えるほどになり
耐え難い重荷となっています。

負わされた傷は膿んで悪臭を放ちます

わたしが愚かな行いをしたからです。

わたしは身を屈め、深くうなだれ

一日中、嘆きつつ歩きます。

腰はただれに覆われています。

わたしの肉にはまともなところもありません。

もう立てないほど打ち砕かれ

心は呻き、うなり声をあげるだけです。

わたしの主よ、わたしの願いはすべて御前にあり
嘆きもあなたには隠されています。

心は動転し、力はわたしを見捨て

目の光もまた、去りました。

疫病にかかったわたしを

愛する者も友も避けて立ち

わたしに近い者も、遠く離れて立ちます。

わたしの命をねらう者は罌を仕掛けます。

わたしに災いを望む者は

欺こう、破滅させよう、と決めて

一日中それを口にしています。

わたしの耳は聞こえないかのように

聞こうとしません。

口は話せないかのように、聞こうとしません。

わたしは聞くことのできない者

口に抗議する力もない者となりました。

主よ、わたしはなお、あなたを待ち望みます。

わたしの主よ、わたしの神よ

御自身でわたしに答えてください。

わたしは願いました

「わたしの足がよろめくことのないように

彼らがそれを喜んで

尊大にふるまうことがないように」と。

わたしは今や、倒れそうになっています。

苦痛を与えるものが常にわたしの前にあり

わたしは自分の罪惡を言い表そうとして

犯した過ちのゆえに苦悩しています。

わたしの敵は強大になり

わたしを憎む者らは偽りを重ね

善意に惡意をもつてこたえます。

わたしは彼らの幸いを願うのに

彼らは敵対するのです。

主よ、わたしを見捨てないでください。

わたしの神よ、遠く離れないでください。

わたしの救い、わたしの主よ

すぐにわたしを助けてください。

4

新約聖書（1ペトロ4・1―11）

キリストは肉に苦しみをお受けになったのですから、あなたがたも同じ心構えで武装しなさい。肉に苦しみを受けた者は、罪とのかかわりを絶った者なのです。それは、もはや人間の欲望にはなく神の御心に従って、肉における残りの生涯を生きるようになるためです。かつてあなたがたは、異邦人が好むようなことを行い、好色、情欲、泥酔、酒宴、暴飲、律法で禁じられている偶像礼拝などにふけていたのですが、もうそれで十分です。あの者たちは、もはやあなたがたがそのようなひどい乱行に加わらなくなったので、不審に思い、そしるのです。彼らは、生きている者と死んだ者とを裁こうとしておられる方に、申し開きをしなければなりません。死んだ者にも福音が告げ知らされたのは、彼らが、人間の見方からすれば、肉において裁かれて死んだようでも、神との関係で、霊において生きようになるためなのです。

万物の終わりが迫っています。だから、思慮深く

5 ふるまい、身を慎んで、よく祈りなさい。何よりも

まず、心を込めて愛し合いなさい。愛は多くの罪を

覆うからです。不平を言わずにもてなし合いなさい。

あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのです

から、神のさまざまな恵みの善い管理者として、そ

の賜物を生かして互いに仕えなさい。語る者は、神

の言葉を語るにふさわしく語りなさい。奉仕をする

人は、神がお与えになった力に応じて奉仕しなさい。

それは、すべてのことにおいて、イエス・キリスト

を通して、神が栄光をお受けになるためです。栄光

と力とが、世々限りなく神にありますように、アー

メン。

黙想（沈黙のうちに御言葉を味わいましょう）

祈祷

主の祈り

4月21日（火） 復活節第二火曜日

祈祷

憐れみ深い神、御子キリストはすべての人を救うために十字架の苦しみを担われました。主イエス・キリストに従うわたしたちに、主の道を歩む勇氣を与え、苦難が襲うときもキリストの愛と真実の内に留まり続ける者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン

旧約聖書（出エジプト2・1―25）

レビの家の出のある男が同じレビ人の娘をめとった。彼女は身ごもり、男の子を産んだが、その子がかわいかったのを見て、三か月の間隠しておいた。しかし、もはや隠しきれなくなったので、パピルス（紙）の籠を用意し、アスファルトとピッチで防水し、その中に男の子を入れ、ナイル河畔の葦の茂みの間に置いた。

その子の姉が遠くに立って、どうなることかと様

子を見ていると、そこへ、ファラオの王女が水浴びをしようと川に下りて来た。その間侍女たちは川岸を歩き来していた。王女は、葦の茂みの間に籠を見つけたので、仕え女をやつて取つて来させた。開けてみると赤ん坊がおり、しかも男の子で、泣いていた。王女はふびんに思い、「これは、きっと、ヘブライ人の子です」と言った。そのとき、その子の姉がファラオの王女に申し出た。「この子に乳を飲ませるヘブライ人の乳母を呼んで参りましょうか。」

「そうしておくれ」と、王女が頼んだので、娘は早速その子の母を連れて来た。王女が、「この子を連れて行つて、わたしに代わつて乳を飲ませておやり手当てはわたしが出しますから」と言ったので、母親はその子を引き取つて乳を飲ませ、その子が大きくなると、王女のもとへ連れて行つた。その子はこうして、王女の子となつた。王女は彼をモーセと名付けて言った。「水の中からわたしを引き上げた（マーシャー）のですから。」

6

7 たちが来て、娘たちを追ひ払つた。モーセは立ち上がつて娘たちを救ひ、羊の群れに水を飲ませてやつた。娘たちが父レウエルのところに帰ると、父は、「どうして今日はこんなに早く帰れたのか」と尋ねた。彼女たちは言った。

「一人のエジプト人が羊飼いの男たちからわたしたちを助け出し、わたしたちのために水をくんで、羊に飲ませてくださいました。」父は娘たちに言った。「どこにおられるのだ、その方は。どうして、お前たちはその方をほうっておくのだ。呼びに行つて、食事を差し上げなさい。」

モーセがこの人のもとにとどまる決意をしたので、彼は自分の娘ツイポラをモーセと結婚させた。彼女は男の子を産み、モーセは彼をゲルシヨムと名付けた。彼が、「わたしは異国にいる寄留者（ゲール）だ」と言ったからである。

それから長い年月がたち、エジプト王は死んだ。その間イスラエルの人々は労働のゆえにうめき、叫んだ。労働のゆえに助けを求める彼らの叫び声は神

モーセが成人したところのこと、彼は同胞のところへ出て行き、彼らが重労働に服しているのを見た。そして一人のエジプト人が、同胞であるヘブライ人の一人を打っているのを見た。モーセは辺りを見回し、だれもないのを確かめると、そのエジプト人を打ち殺して死体を砂に埋めた。翌日、また出て行くと、今度はヘブライ人どうしが二人でけんかをしていて。モーセが、「どうして自分の仲間を殴るのか」と悪い方をたしなめると、「誰がお前を我々の監督や裁判官にしたのか。お前はあのエジプト人を殺したように、このわたしを殺すつもりか」と言い返したので、モーセは恐れ、さてはあの事が知れたのかと思つた。ファラオはこの事を聞き、モーセを殺そうと尋ね求めたが、モーセはファラオの手を逃れてミディアン地方にたどりつき、とある井戸の傍らに腰を下ろした。

さて、ミディアンの祭司に七人の娘がいた。彼女たちがそこへ来て水をくみ、水ぶねを満たし、父の羊の群れに飲ませようとしたところへ、羊飼いの男

に届いた。神はその嘆きを聞き、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。神はイスラエルの人々を顧み、御心に留められた。

詩編（詩編 39）

わたしは言いました。

「わたしの道を守ろう、舌で過ちを犯さぬように。神に逆らう者が目の前にいる。」

わたしの口にくつわをはめておこう。」

わたしは口を閉ざして沈黙し

あまりに黙していたので苦しみがつり

心は内に熱し、呻いて火と燃えた。

わたしは舌を動かして話し始めた。

「教えてください、主よ、わたしの行く末を

わたしの生涯はどれ程のものか

いかにわたしがはかないものか、悟るように。」

御覧ください、与えられたこの生涯は

僅か、手の幅ほどのもの。

御前には、この人生も無に等しいのです。
ああ、人は確かに立っているようでも

すべて空しいもの。

ああ、人はただ影のように移ろうもの。

ああ、人は空しくあくせくし

だれの手に渡るとも知らずに積み上げる。

主よ、それなら

何に望みをかけたらよいのでしょうか。

わたしはあなたを待ち望みます。

あなたに背いたすべての罪からわたしを救い

神を知らぬ者というそしりを

受けないようにしてください。

わたしは黙し、口を開きません。

あなたが計らってくださいでしょう。

わたしをさいなむその御手を放してください。

御手に撃たれてわたしは衰え果てました。

8
あなたに罪を責められ、懲らしめられて

人の欲望など虫けらのようについでます。

ああ、人は皆、空しい。

主よ、わたしの祈りを聞き

助けを求める叫びに耳を傾けてください。

わたしの涙に沈黙していませんでください。

わたしは御もとに身を寄せる者

先祖と同じ宿り人。

あなたの目をわたしからそらせ

立ち直らせてください

わたしが去り、失われる前に。

新約聖書（1ペトロ4・12―19）

愛する人たち、あなたがたを試みるために身にふりかかる火のような試練を、何か思いがけないことが生じたかのように、驚き怪しんではなりません。むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど喜びなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びに満ちあふれるためです。あなたがた

祈祷

主の祈り

4月22日（水） 復活節第二水曜日

祈祷

憐れみ深い神、御子キリストは自ら僕の身分となり、死に至るまでへりくだることによって、わたしたちに神の国を示されました。わたしたちも互いに尊敬の心を持ち、恐れずにへりくだり、主が招いてくださる永遠の栄光に共に入ることができますように。主イエス・キリストの御名によって。アーメン

旧約聖書（出エジプト3・1―12）

モーセは、しゅうとでありミディアンの祭司であるエトロの羊の群れを飼っていたが、あるとき、その群れを荒れ野の奥へ追って行き、神の山ホレブに

黙想

来た。そのとき、柴の間に燃え上がっている炎の中に主の御使いが現れた。彼が見ると、見よ、柴は火に燃えているのに、柴は燃え尽きない。モーセは言った。「道をそれて、この不思議な光景を見届けよう。どうしてあの柴は燃え尽きないのだろう。」

主は、モーセが道をそれて見に来るのを御覧になった。神は柴の間から声をかけられ、「モーセよ、モーセよ」と言われた。彼が、「はい」と答えると、神が言われた。「ここに近づいてはならない。足から履物を脱ぎなさい。あなたの立っている場所は聖なる土地だから。」神は続けて言われた。「わたしはあなたの父の神である。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは、神を見ることを恐れて顔を覆った。

主は言われた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った。それゆえ、わたしは降って行き、エジプト人の手から彼らを救い出し、この国から、広々としたすばらしい土地

11 滅びの穴、泥沼からわたしを引き上げ

わたしの足を岩の上に立たせ／しっかりと歩ませ

わたしの口に新しい歌を

わたしたちの神への賛美を授けてくださった。

人はこぞって主を仰ぎ見

主を畏れ敬い、主に依り頼む。

いかに幸いなことか、主に信頼をおく人

ラハブを信ずる者にくみせず

欺きの教えに従わない人は。

わたしの神、主よ

あなたは多くの不思議な業を成し遂げられます。

あなたに並ぶものはありません。

わたしたちに対する数知れない御計らいを

わたしは語り伝えて行きます。

あなたはいけにえも、穀物の供え物も望まず
焼き尽くす供え物も

罪の代償の供え物も求めず

ただ、わたしの耳を開いてくださいました。

地、乳と蜜の流れる土地、カナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の住む所へ彼らを導き上る。見よ、イスラエルの人々の叫び声が、今、わたしのもとに届いた。また、エジプト人が彼らを圧迫する有様を見た。今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ。」

モーセは神に言った。「わたしは何者でしょう。どうして、ファラオのもとに行き、しかもイスラエルの人々をエジプトから導き出さねばならないのですか。」

詩編（詩編40）

主にのみ、わたしは望みをおいていた。

主は耳を傾けて、叫びを聞いてくださった。

そこでわたしは申します。

御覧ください、わたしは来ております。

わたしのことは

巻物に記されております。

わたしの神よ、御旨を行うことをわたしは望み

あなたの教えを胸に刻み

大いなる集会で正しく良い知らせを伝え

決して唇を閉じません。

主よ、あなたはそれをご存じです。

恵みの御業を心に秘めておくことなく

大いなる集会であなたの真実と救いを語り

慈しみとまことを隠さずに語りました。

主よ、あなたも憐れみの心を閉ざすことなく

慈しみとまことによつて

いつもわたしをお守りください。

悪はわたしにからみつき、数えきれません。
わたしは自分の罪に捕えられ

何も見えなくなりました。

その数は髪の毛よりも多く

わたしは心挫けています。

主よ、走り寄ってわたしを救ってください。

主よ、急いでわたしを助けてください。

わたしの命を奪おうとねらっている者が

恥を受け、嘲られ

わたしを災いに遭わせようと望む者が

侮られて退き

わたしに向かってはやし立てる者が

恥を受けて破滅しますように。

あなたを尋ね求める人が

あなたによって喜び祝い、楽しみ

御救いを愛する人が

主をあがめよいつも歌いますように。

主よ、わたしは貧しく身を屈めています。

12

わたしのためにお計らいください。

13
からです。

だから、神の力強い御手の下で自分を低くしなさい。そうすれば、かの時には高めていただけます。思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心に掛けていくくださるからです。

身を慎んで目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。信仰にしっかりと踏みとどまって、悪魔に抵抗しなさい。あなたがたと信仰を同じくする兄弟たちも、この世で同じ苦しみに遭っているのです。それはあなたがたも知っているとおります。しかし、あらゆる恵みの源である神、すなわち、キリスト・イエスを通してあなたがたを永遠の栄光へ招いてくださった神御自身が、しばらくの間苦しんだあなたがたを完全な者とし、強め、力づけ、揺らぐことがないようにしてください。力が世々限りなく神にありますように、アーメン。

あなたはわたしの助け、わたしの逃れ場。
わたしの神よ、速やかに来てください。

福音書（1ペトロ5・1―14）

さて、わたしは長老の一人として、また、キリストの受難の証人、やがて現れる栄光にあずかる者として、あなたがたのうちの長老たちに勧めます。あなたがたにゆだねられている、神の羊の群れを牧しなさい。強制されてではなく、神に従って、自ら進んで世話をしなさい。卑しい利得のためにではなく、献身的にしなさい。ゆだねられている人々に対して、権威を振り回してもいけません。むしろ、群れの模範になりなさい。そうすれば、大牧者がお見えになるとき、あなたがたはしばむことのない栄冠を受けることになります。

同じように、若い人たち、長老に従いなさい。皆互いに謙遜を身に着けなさい。なぜなら、

「神は、高慢な者を敵とし、

謙遜な者には恵みをお与えになる」

わたしは、忠実な兄弟と認めているシルワノによって、あなたがたにこのように短く手紙を書き、勧告をし、これこそ神のまことの恵みであることを証しました。この恵みにしっかりと踏みとどまりなさい。共に選ばれてバビロンにいる人々と、わたしの子マルコが、よろしくと言っています。愛の口づけによって互いに挨拶を交わしなさい。キリストと結ばれているあなたがた一同に、平和があるように。

黙想

祈祷

主の祈り

4月23日(木)

復活節第二木曜日

祈禱

憐れみ深い神、あなたは、御子キリストの尊い血によってわたしたちを贖い、水と聖霊によって新しいのちを与えてくださいます。わたしたちがあなたの恵みを深く悟り、日々、信仰に生きることができますように。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン

旧約聖書(出エジプト3・13―22)

モーセは神に尋ねた。

「わたしは、今、イスラエルの人々のところへ参ります。彼らに、『あなたたちの先祖の神が、わたしをここに遣わされたのです』と言えば、彼らは、『その名は一体何か』と問うにちがいません。彼らに何と答えるべきでしょうか。」

神はモーセに、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と言われ、また、「イスラエルの人々にこう14 言うがよい。『わたしはある』という方がわたしをあ

なたたちに遣わされたのだと。」神は、更に続けてモーセに命じられた。

「イスラエルの人々にこう言うがよい。あなたたちの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主がわたしをあなたたちのもとに遣わされた。」

これこそ、とこしえにわたしの名

これこそ、世々にわたしの呼び名。

さあ、行つて、イスラエルの長老たちを集め、言うがよい。『あなたたちの先祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神である主がわたしに現れて、こう言われた。わたしはあなたたちを顧み、あなたたちがエジプトで受けてきた仕打ちをつぶさに見た。あなたたちを苦しみのエジプトから、カナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の住む乳と蜜の流れる土地へ導き上ろうと決心した』と。彼らはあなたの言葉に従うであろう。あなたはイスラエルの長老たちを伴い、エジプト王のもとに行つて彼に言いなさい。『ヘブライ人の神、主がわたした

主よ、その人を守って命を得させ

この地で幸せにしてください。

貪欲な敵に引き渡さないでください。

主よ、その人が病の床にあるとき、支え

力を失って伏すとき、立ち直らせてください。

わたしは申します。

「主よ、憐れんでください。

あなたに罪を犯したわたしを癒してください。」

敵はわたしを苦しめようとして言います。

「早く死んでその名も消えうせるがよい。」

見舞いに来れば、むなしいことを言いますが

心に悪意を満たし、外に出ればそれを口にします。

わたしを憎む者は皆、集まってささやき

わたしに災いを謀っています。

「呪いに取りつかれて床に就いた。

二度と起き上がれまい。」

わたしの信頼していた仲間

わたしのパンを食べる者が

詩編(詩編41)

いかに幸いなことでしょう

弱いものに思いやりのある人は。

災いのふりかかるとき

主はその人を逃れさせてくださいます。

威張ってわたしを足げにします。

主よ、どうかわたしを憐れみ

再びわたしを起き上がらせてください。

そうしてくだされば

彼らを見返すことができます。

そしてわたしは知るでしょう

わたしはあなたの御旨にかなうのだと

敵がわたしに対して勝ち誇ることはない。

どうか、無垢なわたしを支え

とこしえに、御前に立たせてください。

主をたたえよ、イスラエルの神を

世々とこしえに。アーメン、アーメン。

新約聖書（2ペトロ 1・1―11）

イエス・キリストの僕であり、使徒であるシメオン・ペトロから、わたしたちの神と救い主イエス・キリストの義によって、わたしたちと同じ尊い信仰を受けた人たちへ。神とわたしたちの主イエスを知

ることによって、恵みと平和が、あなたがたにますます豊かに与えられるように。

主イエスは、御自分の持つ神の力によって、命と信心とにかかわるすべてのものを、わたしたちに与えてくださいました。それは、わたしたちを御自身の栄光と力ある業とで召し出してくださった方を認識させることによるのです。この栄光と力ある業とによって、わたしたちは尊くすばらしい約束を与えられています。それは、あなたがたがこれらによって、情欲に染まったこの世の退廃を免れ、神の本性にあずかせていただくようになるためです。だから、あなたがたは、力を尽くして信仰には徳を、徳には知識を、知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には信心を、信心には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。これらのものが備わり、ますます豊かになるならば、あなたがたは怠惰で実を結ばない者とはならず、わたしたちの主イエス・キリストを知るようになるでしょう。これらを備えていない者

17は、視力を失っています。近くのものしか見えず、

以前の罪が清められたことを忘れていきます。だから兄弟たち、召されていること、選ばれていることを確かなものとするように、いっそう努めなさい。これらのことを実践すれば、決して罪に陥りません。こうして、わたしたちの主、救い主イエス・キリストの永遠の御国に確かに入ることができるようになります。

黙想

祈祷

主の祈り

4月24日（金） 復活節第二金曜日

祈祷

すべての人の父である神、あなたは御子に「わたしの愛する子。わたしの心に適う者」と告げ、天から聖霊を降らせました。主イエスがその命によってわたしたちに語られたあなたの愛の言葉を、喜びをもって受け入れ、いつも心に響かせることができますように。主イエス・キリストの御名によって。アーメン

旧約聖書（出エジプト 4・1―17）

モーセは逆らって、「それでも彼らは、『主がお前などに現れるはずがない』と言って、信用せず、わたしの言うことを聞かないでしょう」と言うと、主は彼に、「あなたが手に持っているものは何か」と言われた。彼が、「杖です」と答えると、主は、「それを地面に投げよ」と言われた。彼が杖を地面に投げると、それが蛇になったのでモーセは飛びのいた。

主はモーセに、「手を伸ばして、尾をつかめ」と言われた。モーセが手を伸ばしてつかむと、それは手の中で杖に戻った。「こうすれば、彼らは先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、主があなたに現れたことを信じる。」主は更に、「あなたの手をふところに入れなさい」と言われた。モーセは手をふところに入れ、それから出してみると、驚いたことには、手は重い皮膚病にかかり、雪のように白くなっていた。主が、「手をふところに戻すがよい」と言われたので、ふところに戻し、それから出してみると、元の肌になっていた。「たとえ、彼らがあなたを信用せず、最初のしるしが告げることが聞かないとしても、後のしるしが告げることが信じる。しかし、この二つのしるしのどちらも信ぜず、またあなたの言うことも聞かないならば、ナイル川の水をくんできて乾いた地面にまくがよい。川からくんできた水は地面で血に変わるであろう。」

18 それでもなお、モーセは主に言った。「ああ、主よ。わたしはもともと弁が立つ方ではありません。あな

19 はあなたに代わって民に語る。彼はあなたの口となり、あなたは彼に対して神の代わりとなる。あなたはこの杖を手にとって、しるしを行うがよい。」

詩編（詩編42）

涸れた谷に鹿が水を求めるように

神よ、わたしの魂はあなたを求める。

神に、命の神に、わたしの魂は渴く。

いつ御前に出て

神の御顔を仰ぐことができるのか。

昼も夜も、わたしの糧は涙ばかり。

人は絶え間なく言う

「お前の神はどこにいる」と。

わたしは魂を注ぎ出し、思い起こす

喜び歌い感謝をささげる声の中を

祭りに集う人の群れと共に進み

神の家に入り、ひれ伏したことを。

たが僕にお言葉をかけてくださった今でもやはりそうです。全くわたしは口が重く、舌の重い者なのです。」主は彼に言われた。「一体、誰が人間に口を与えたのか。一体、誰が口を利けないようにし、耳を聞こえないようにし、目を見えるようにし、また見えなくするのか。主なるわたしではないか。さあ、行くがよい。このわたしがあなたの口と共にあって、あなたが語るべきことを教えよう。」モーセは、なおも言った。「ああ主よ。どうぞ、だれかほかの人を見つけてお遣わしてください。」

主はついに、モーセに向かって怒りを発して言われた。

「あなたにはレビ人アロンという兄弟がいるではないか。わたしは彼が雄弁なことを知っている。その彼が今、あなたに会おうとして、こちらに向かっている。あなたに会ったら、心から喜ぶであろう。彼によく話し、語るべき言葉を彼の口に託すがよい。わたしはあなたの口と共にあり、また彼の口と共にあって、あなたたちのなすべきことを教えよう。彼

なぜうなだれるのか、わたしの魂よ

なぜ呻くのか。神を待ち望め。

わたしはなお、告白しよう

「御顔こそ、わたしの救い」と。

わたしの神よ。

わたしの魂はうなだれて、あなたを思い起こす。

ヨルダンの地から、ヘルモンとミザルの山から

あなたの注ぐ激流のとどろきにこたえて

深淵は深淵に呼ばわり

砕け散るあなたの波はわたしを越えて行く。

昼、主は命じて慈しみをわたしに送り

夜、主の歌がわたしと共にある

わたしの命の神への祈りが。

わたしの岩、わたしの神に言おう。

「なぜ、わたしをお忘れになったのか。

なぜ、わたしは敵に虐げられ

嘆きつつ歩くのか。」

わたしを苦しめる者はわたしの骨を砕き
絶え間なく嘲って言う

「お前の神はどこにいる」と。

なぜうなだれるのか、わたしの魂よ

なぜ呻くのか。

神を待ち望め。

わたしはなお、告白しよう

「御顔こそ、わたしの救い」と。

わたしの神よ。

新約聖書（2ペトロ 1・12―21）

従って、わたしはいつも、これらのことをあなた
がたに思い出させたいのです。あなたがたは既に知
っているし、授かった真理に基づいて生活している
のですが。わたしは、自分がこの体を仮の宿として
いる間、あなたがたにこれらのことを思い出させて
奮起させるべきだと考えています。わたしたちの主

20

21 心得てほしいのは、聖書の預言は何一つ、自分勝手

に解釈すべきではないということです。なぜなら、
預言は、決して人間の意志に基づいて語られたので
はなく、人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語っ
たものだからです。

黙想

祈祷

主の祈り

4月25日（土） 復活節第二土曜日

祈祷

全能、永遠の父なる神、あなたに希望をおく民の信
仰を強め、目を覚まさせてください。御子の恵みに
よって、あなたの子どもとなる恵みを受けたわたし
たちが、感謝のうちに救いの完成を待ち望むことが

イエス・キリストが示してくださったように、自分
がこの仮の宿の間もなく離れなければならないこ
とを、わたしはよく承知しているからです。自分が
世を去った後もあなたがたにこれらのことを絶え
ず思い出してもらうように、わたしは努めます。

わたしたちの主イエス・キリストの力に満ちた来
臨を知らせるのに、わたしたちは巧みな作り話を用
いたわけではありません。わたしたちは、キリスト
の威光を目撃したのです。莊嚴な栄光の中から、「こ
れはわたしの愛する子。わたしの心に適う者」とい
うような声があつて、主イエスは父である神から誉
れと栄光をお受けになりました。わたしたちは、聖
なる山にイエスといたとき、天から響いてきたこの
声を聞いたのです。こうして、わたしたちには、預
言の言葉はいっそう確かなものとなっています。夜
が明け、明けの明星があなたがたの心の中に昇ると
きまで、暗い所に輝くともし火として、どうかこの
預言の言葉に留意していてください。何よりもまず

できますように。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン

旧約聖書（出エジプト 4・18―31）

モーセがしゅうとのエトロのもとに帰って、「エ
ジプトにいる親族のもとへ帰らせてください。まだ
元気でいるかどうか見届けたいのです」と言うのと、
エトロは言った。「無事で行きなさい。」

主はミディアンでモーセに言われた。

「さあ、エジプトに帰るがよい、あなたの命をねら
っていた者は皆、死んでしまった。」モーセは、妻子
をろばに乗せ、手には神の杖を携えて、エジプトの
国を指して帰って行った。主はモーセに言われた。

「エジプトに帰ったら、わたしがあなたの手に授
けたすべての奇跡を、心してファラオの前で行うが
よい。しかし、わたしが彼の心をかたくなにするの
で、王は民を去らせないであろう。あなたはファラ
オに言うがよい。主はこう言われた。『イスラエルは
わたしの子、わたしの長子である。わたしの子而去

らせてわたしに仕えさせよと命じたのに、お前はそれを断った。それゆえ、わたしはお前の子、お前の長子を殺すであらう』と。」

途中、ある所に泊まったとき、主はモーセと出会い、彼を殺そうとされた。ツイポラは、とつさに石刀を手にして息子の包皮を切り取り、それをモーセの両足に付け、「わたしにとって、あなたは血の花婿です」と叫んだので、主は彼を放された。彼女は、そのとき、割礼のゆえに「血の花婿」と言ったのである。

主はアロンに向かって、「さあ、荒れ野へ行つて、モーセに会いなさい」と命じられたので、彼は出かけて行き、神の山でモーセと会い、口づけした。モーセは自分を遣わされた主の言葉と、命じられたしるしをすべてアロンに告げた。モーセはアロンを伴つて出かけ、イスラエルの人々の長老を全員集めた。アロンは主がモーセに語られた言葉をことごとく語り、民の面前でしるしを行ったので、民は信じた。

22 また、主が親しくイスラエルの人々を顧み、彼らの

23 わたしの神を喜び祝い

琴を奏でて感謝の歌をうたいます。

神よ、わたしの神よ。

なぜうなだれるのか、わたしの魂よ

なぜ呻くのか。

神を待ち望め。

わたしはなお、告白しよう

「御顔こそ、わたしの救い」と。

わたしの神よ。

新約聖書（2ペトロ3・8―13）

愛する人たち、このことだけは忘れないでほしい。主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようです。ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。主の日は盗人のようにやって来ます。

苦しみを御覧になったということを聞き、ひれ伏して礼拝した。

詩編（詩編43）

神よ、あなたの裁きを望みます。

わたしに代わって争ってください。

あなたの慈しみを知らぬ民、欺く者

よこしまな者から救ってください。

あなたはわたしの神、わたしの砦。

なぜ、わたしを見放されたのか。

なぜ、わたしは敵に虐げられ

嘆きつつ行き来するのか。

あなたの光とまことを遣わしてください。

彼らはわたしを導き

聖なる山、あなたのいますところに

わたしを伴ってくれるでしょう。

神の祭壇にわたしは近づき

その日、天は激しい音をたてながら消えうせ、自然界の諸要素は熱に熔け尽くし、地とそこで造り出されたものは暴かれてしまいます。このように、すべてのものは滅び去るのですから、あなたがたは聖なる信心深い生活を送らなければなりません。神の日の来るのを待ち望み、また、それが来るのを早めるようにすべきです。その日、天は焼け崩れ、自然界の諸要素は燃え尽き、熔け去ることでしょう。しかしわたしたちは、義の宿る新しい天と新しい地とを、神の約束に従って待ち望んでいるのです。

黙想

祈祷

主の祈り